
ビックリマン2000外伝

法色明

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ビックリマン2000外伝

【Nコード】

N4650BA

【作者名】

法色明

【あらすじ】

三流ヘッド対聖魔12隊玖番隊長・副隊長の対決です。

ゴドブレス達のプライドが硝子のように砕け散る爽快感をお楽しみください。

三流ヘッドの敗北。(前書き)

三流ヘッドには敵しすぎる現実が待っていた。

三流ヘッドの敗北。

三流ヘッドのゴドブレス・プロフェードに言い渡された言葉は、「ヘッドから降格」という最後通牒だった。

残留試験は揃って不合格の絶体絶命な状態。此の俣ではヘッド残留も危うい状況であり、

奴らの所属軍「新天聖軍（28人の軍隊）」も潰滅寸前。

すると、スーパーゼウスは「2時間後の実技試験で、勝てたら残留を認めよう。」と謂ったが、

相手はバカラ棟梁が新天聖軍対策に組織した「聖魔12隊」の玖番隊長の「LOVEサー帝」と副隊長の「A球サービス」だった。

三流ヘッドの敗北。(後書き)

完全に、ビックリマン2000の集中豪無篇を完全破壊して作った小説です。

キャラ紹介（前書き）

キャラの大体の紹介です。

キャラ紹介

LOVEサー帝

聖魔12隊の玖番隊長に就任したテニス天使。頭脳明晰でプリキュア好きな天使。必殺技にはプリキュアシリーズ関連が多い。声優は「伊藤静」

A球サービス

聖魔12隊の玖番副隊長に就任したLOVEサー帝の^{サポーター}聖守。顔がえなりかずきに似てるのか、声も「えなりかずき」である。天使・LOVEサー帝との相性は抜群に良い。必殺技は、『いろはにほへと』を取り入れた技を使う。

聖祝宰ゴドブレス

三流天使ヘッドで、「新天聖軍」の隊長。顔面はセンター寄りで不細工、地獄音痴、バカと三拍子揃ったダメ人間。

声は「akbの前田敦子」。

剛昇プロフェード

三流聖守ヘッドで、「新天聖軍」の副隊長。バカで臆病者で、ヘタレで、人間性がない薄っぺら最低人間。声は「世界のハイパー」。

キャラ紹介（後書き）

ビックリマン2000の集中豪無篇の設定を完全破壊して再構築したお話です。

特に、ゴドブレス・プロフェードはムカつく賊なので、最弱キャラにしました。

三流ヘッド落第決定。(前書き)

新天聖軍が聖魔12隊に敗北した事から始まります。
三流ヘッドは残留出来るか？

三流ヘッド落第決定。

時は、2011年。1985年3月23日にアレグリアが隕石衝突により、滅亡してから26年が過ぎた。

LOVEサー帝「結局、新天聖軍って、ザコ過ぎて相手にならなかつたわね。」

A球サービス「LOVEさん、そもそも28人しかいないのに、軍と謂ってる時点でおかしいものですよ。」

LOVEサー帝「其れもそうよね。非常に弱いし、軍の26人はあり得ないぐらいに痩せ細っていて今にも倒れそうだったわね。」

と、「玖」のバッジを胸に付けた「天使・LOVEサー帝」と「聖守・A球サービス」が話していた。

再西太后「私達、聖魔12隊の力が無くても勝てたんじゃないの？」

保護観音「一応、念には念をおいた方が良いわよ。じゃないと、勝てる試合も勝てないわ。」

聖魔12隊の参番隊長の「保護観音」と肆番隊長の「再西太后」が言う通り、「新天聖軍」は非常に弱かった。

聖魔12隊は悪魔ヘッドに就任した「バカラ棟梁」が妻「聖母ダンディーラー」と共に組織した軍である。

来たる「新天聖軍」に備え、天使や悪魔から12人の隊長、^{サポーター}聖守や^{フリガン}魔守から副隊長を選び聖魔和合界を護る義勇軍である。

ピンゾロイド2号「LOVEサー帝さん、お疲れだゾロ。」

LOVEサー帝「お疲れも何も、あんな弱過ぎる奴らなんか戦って勝っても意味ないわ。」

ピンゾロイド2号「其れもそうゾロね。」

LOVEサー帝と話してるロボは、バカラ棟梁の魔守「ピンゾロイド2号」である。

聖魔12隊の管理を任されており、たまにミスはするが、結構頼りになるキャラである。

A球サービス「ところで、ピンゾロイドさん、何か伝言とかありませんかね?」

ピンゾロイド2号「そうゾロ。バカラ様から伝言があったゾロ。」

ピンゾロイド2号は、LOVEサー帝とA球サービスに伝言を見せた。

LOVEサー帝「何々、此の戦いは見事我らの勝利で終わった。尚、三流ヘッドは、残留試験に不合格したようだ。……だつてね。」

A球サービス「此れは、最後通牒ですね。」

バカラ棟梁は勝利発言と、敗北した奴らの処分を記した紙をピンゾロイド2号に渡したのであった。

其の頃、三流ヘッドである、ゴドブレス・プロフェードは、残留試験不合格を言い渡されていた。

グリニッジ神官「残念ながら、君達二人をヘッドにする資格はない。」

テクニカルK王「と言う訳だ。さっさと諦めて降格するんだな。」

厳しい言葉を謂ったのは、聖魔12隊の伍番隊長の「テクニカルK王」と拾貳番隊長の「グリニッジ神官」だった。

プロフェード「ワスらが不合格って、何かの間違いだよな？」

グリニッジ神官「間違いではなく、本当のことであり、紛れの無い事実だ。」

ゴドブレス「偶々試験が難しかっただけよ！」

テクニカルK王「レベルは高校入試程度で、普通に勉強すれば落ちないけど、お前らはバカだったな。」

何度も食い下がろうとする三流ヘッドだが、事実を覆す事は出来なかった。

勿論、聖魔12隊の捕虜になった新天聖軍の処分は想像を絶する程厳しかった。

LOVEサー帝「問題は、普通に勉強すれば解けるのに、アイツらはバカだったわね。情けないけど、同情出来ないわ。」

A球サービス「将にバカにつける薬はないと同じだな。」

捕虜になった三流ヘッドのテスト結果は赤点連発の散々なものだった。

其の結果にスーパーゼウスは、「前代未聞で空前絶後のバカヘッドじゃ。ヘッドの顔を汚した恥曝しには用はない。」と安易に切り捨てた。

其の処分にゴドブレス・プロフェード両人は、

「お願いします、最後のチャンスを。」と土下座して必死に頼み込んだのであった。

スーパーゼウス「しかし、ワシも其処迄厳しくはせん。来たる二ヵ月後の実技試験に勝てたら、ヘッド残留を認めよう。

但し、敗けたら、問答無用で降格じゃ。」

と、最後のチャンスを与えた。

しかし、最後のチャンスなんて最初から存在せず、寧ろ、厳し過ぎる現実が待っていようとは、三流ヘッドは未だ知らなかった。

三流ヘッド落第決定。(後書き)

完全に集中豪無篇を破壊した内容を執筆しました。

此れからの「LOVEサー帝」、「A球サービス」コンビの活躍をお楽しみください。

2ヶ月後の対決！明法（あかのり）地区の勝負。（前書き）

LOVEサー帝・A球サービス対三流ヘッダの対決がついに始まる。
果たして、どっちが強いか？

2ヶ月後の対決！明法（あかのり）地区の勝負。

スーパーゼウスが実技試験の条件を言い渡してから2ヶ月が経過した。

LOVEサー帝「スーパーゼウス様、何で私達の地域ゾーンの明法地区あかのりを選択したの？」

スーパーゼウス「理由は簡単じゃ。あの三流ヘッドには決定権は無いのじゃ。其れにLOVEサー帝ちゃんの力を見たいからのお。」

LOVEサー帝「其れもそうよね。アタシ達の所屬地域ホームゾーンの方がやり易いわね。」

スーパーゼウスやバカラ棟梁や仲間達、聖魔12隊の面々はゴドブレス・プロフェードの公開処刑を見ようと『テニスゾーン』の明法地区に駆け付けた。

A球サービス「LOVEさん、応援が多いからやりがいがありますね。」

LOVEサー帝「実際の試合もあれだけ入れればモチベーションが上がるわね。」

さあ、アタシ達の二人戦術ダブルスを見せてあげるわよ！」

A球サービス「そして、あの三流ヘッドには生き恥を晒してみせましょう。」

と、仲良しテニス天使・聖守は余裕をみせていた。

保護観音「本当に余裕をこいて大丈夫かしら？私、心配になってきたわ。」

Xスパイ91「保護観音殿、心配は無用でござるよ。LOVE殿は明るい性格だが、力は悪魔ヘッドを倒せる实力はある。」

拾番隊長の「Xスパイ91」は本気になったLOVEサー帝の实力を知っていた。

明石御前「其れに、A球サービスさんとの仲は最高になってますよ。」

拾貳番副隊長の「明石御前」もまた、最高の二人戦術に期待を寄せていた。

LOVEサー帝とA球サービスは二人戦術の準備を着々と続ける中、三流ヘッドは完全に追い詰められた。

プロフェード「アイツら、本当にワスらより、強いだすよ。勝ち目はねえよ。」

ゴドブレス「此の俣では、勝てないわね。其処で秘策を用意したの。強力融合薬よ。」

強力融合薬は、使用禁止薬品に指定される「硫酸悪襟怨」を使う二人を一人にする薬である。

しかし、其れには恐ろしい副作用があるとは、知る由もない三流ヘッドだった。

しかし、注意書も読めない三流ヘッドは融合薬を飲んだ。

LOVEサー帝とA球サービスは約束の時間になっても三流ヘッドが現れない事に困り果てていた。

A球サービス「しっかし、15分経つても来ませんね。」

LOVEサー帝「遅いわね！何時迄待たせるつもりなの〜！
其れとも、臆病になって、一目散に逃げたんじゃないの？」

LOVEサー帝の苛々も限界に達しようとした時、決闘場に何かが見れた。

審判員「君ねえ、15分も何をしてたんだ？後5分遅れたら不戦敗にするぞ。」

LOVEサー帝「アンタら、逃げ出したんじゃ無かったの？
其れとも、アタシ達の二人戦術に敗けるのが怖くて暫く怯えてたんでしょ？」

ゴドブロフェード「何だと貴様！我々が臆病者だと嘗めやがって！
ワスの激鱗を嘗めた罪は重いぞ！」

融合した、ゴドブロフェードの諺の間違いに一堂は固まった。

保護観音「正しくは『逆鱗』よ。そして、逆鱗は嘗めるんじゃないなくて、『触れる』が正しい使い方よ。」

再西太后「全く、諺も漢字も間違えるなんて、最強バカヘッドね。」

LOVEサー帝「逆鱗に触れるという諺も、まともには出来ないアンタらには、アタシとA球には勝てないわ！」

LOVEサー帝はキュアホワイトのポーズで相手を睨んだ。

バカラ棟梁「流石だな、LOVEサー帝。相手を軽くいなしてるな。」

Xスパイ91「寧ろ、弄ばれているのは、あの三流ヘッドしかあるまい。拙者にはLOVE殿が完膚なき迄に叩きのめすしか答えはない。」

いよいよ、LOVEサー帝・A球サービス対三流融合ヘッドゴドブロフェードの対決が始まる。

審判員「此れより実技試験を開始する。お互いに礼。始め！」

実技試験は、30分間の対決方式で、時間以内に相手を倒せば勝ちである。

ゴドブロフェード「先ずは、貴様らを殺す！必殺、大魔殺剣・耳厳斬！」

しかし、LOVEサー帝とA球サービスの姿は其処には無かった。

ゴドブロフェード「奴らがない？一体何処へ？」

LOVEサー帝「アタシ達なら此処よ！」

なんと、LOVEサー帝達は大魔殺剣の上に乗っていた。

ゴドブロフェード「何時の間にも移動した!？」

A球サービス「あまりにも、遅過ぎました、剣に乗るのは簡単でした。」

LOVEサー帝「遅過ぎるから、アタシのパッションテレポートを使わずに済んだわ。」

LOVEサー帝達は、相手の攻撃を^{かわ}躲し、剣に乗っていた。これから、LOVEサー帝達の二人^{ダブルス}戦術が炸裂する!

2ヶ月後の対決〜明法（あかのり）地区の勝負。（後書き）

ついに始まりました。しかし、ゴドプロフェードは本当にバカで弱いな。

まあ、私の小説だから、別に良いか。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4650ba/>

ビックリマン2000外伝

2012年1月14日09時45分発行